

報道関係各位	発信年月日	令和4年2月25日		
担当部課名	担当部長名	担当者職氏名	連絡先電話番号	
議会事務局	局長 尾山 邦彦	主任 原田 尚枝	(0836) 82-1182	
件名	市議会定例会（3月）の代表質問及び一般質問通告書の送付について			
内 容				
<p>市議会定例会（3月）の代表質問及び一般質問通告書を送付しますので、御確認ください。</p> <p>○代表質問は3月3日（木）で、開始時刻は午前10時からです。 ○一般質問は3月4日（金）から8日（火）の土日を除く3日間で、開始時刻は午前9時30分からです。</p> <p>《質問日》 《質問者》</p> <p>3月3日（木） 2人（笹木議員[至誠一心会]、長谷川議員[みらい21]）</p> <p>3月4日（金） 4人（矢田議員、藤岡議員、福田議員、古豊議員）</p> <p>3月7日（月） 4人（吉永議員、中島議員、中岡議員、白井議員）</p> <p>3月8日（火） 4人（岡山議員、前田議員、山田議員、伊場議員）</p>				

FAX 発信者：山陽小野田市企画部シティセールス課
 電話 (0836) 82-1148 FAX (0836) 83-9336

代表質問通告書

令和4年3月定例会

1 番 会派 至誠一心会 笹木慶之議員

1 令和4年度施政方針について

(1) 第二次山陽小野田市総合計画における「中期基本計画」の幕開けと今後の市政運営について

ア 市の全ての政策が市民生活と密接につながっている。市民が実感し、共感できる事業を推進することが重要であり、行政の継続性を踏まえた対応が求められる。そこで、令和3年度の施政方針に掲げた施策の現時点での総合的な評価はどうか。また、これを踏まえた中で、今後の施策をどのように展開していこうと考えているか。

イ 新型コロナを見据えた持続可能な地域社会の形成に向けて、健全な行財政運営と政策財務が重要と考えるが、どのように取り組むのか。

ウ ふるさと納税やレジャー・観光収入等積極的な財源確保と事業の「選択と集中」が必要と考えるが、これらをどのように進めていくのか。

エ 人口減少対策の取組の現時点での評価はどうか。また、これを踏まえた中で、今後どのように取り組むのか。

(2) 重点施策、横断的施策等について

ア 「地域を創る」のこれまでの進捗状況はどうか。また、どのような地域づくりをしようとしているのか。

イ 「ひとを創る」のこれまでの進捗状況はどうか。また、どのようなひとづくりをしようとしているのか。

ウ 「まちの価値を創る」のこれまでの進捗状況はどうか。また、どのようなまちの価値を創ろうとしているのか。

エ どのようなデジタル社会を目指し、具体的に取り組んでいくのか。

2 番 会派 みらい21 長谷川知司議員

1 令和4年度施政方針について

(1) 「ひとを創る」について

ア 特色ある学校教育の推進とあるが、その具体的施策として掲げている「学校教育の推進・小中高大の教育連携は、他市も行っていると思

う。この特色とは何か。

イ 高千帆小学校の児童数の増加に対応中であるが、他校区の児童生徒数の増減にはどのように対応していくのか。

(2) 「まちの価値を創る」について

ア 今後、交流人口はどのように増加すると見込んでいるか。施政方針に掲げられている取組では、費用対効果や継続性を考えると、増加するか疑問である。これまでの様々な提案をどのように検討しているのか。

イ 文化会館の中長期整備計画は、建物の長寿命化だけでなく、新幹線が停車するJR厚狭駅との連携や駅南地区をはじめとする厚狭地域全体を大局的に考えて、利用率を格段に高めることを目標に作成すべきと考えるが、どうか。

ウ 埴生地区の宝である青年の家と糸根公園は、交流人口増加促進地区と考えると整備したらどうか。

エ LABVやきらら交流館の再整備は市の浮沈に関わる大事業である。外部人材の登用を含め、専属スタッフのチームを組織して進めるべきと考えるが、どうか。

(3) 山口東京理科大学との連携について

ア スマイルサイエンス事業を大学のキャンパスで実施することは良いことだが、市民には大学があることでどのような利点があるのか。

イ 市が率先して学生と市民が触れ合う機会を作ろうとしているか。

(4) 市長の思いについて

職員一同で「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に努めていくとある。市長は来月に在任6年目を迎えられるが、いまだに市長の顔が見えない、市長の思いは理解しにくいなどの声を聞く。この原因と市民への対応をどう考えているか。

一般質問通告書

令和4年3月定例会

1 番 矢 田 松 夫 議員 (一問一答)

1 令和4年度施政方針について

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策の最前線で働く、医療従事者、介護、保育士など医療・福祉部門の労働者の処遇改善について、施策にどのように反映されているか。
- (2) 財政基盤の確立について
 - ア 中期基本計画を踏まえた財政見通しはあるか。
 - イ 硬直化した財政状況下で、市長の力量が発揮できるのか。
- (3) 3つの「創る」について、市民と共存した新たな価値の創造に向けて
 - ア 地域を創るに当たり、「地域交流センター化」に不安はないか。
 - イ ひとを創るに当たり、「子育て世代」に対する一過性の給付金の支給より、将来につながる基盤整備を行うことが先ではないか。
 - ウ まちの価値を創るに当たり、既存事業の成果を更に高める計画を立てているか。

2 番 藤 岡 修 美 議員 (一問一答)

1 ふるさと納税の活用によるまちづくりについて

- (1) ふるさと納税の理念、意義について、どのように考えているか。
- (2) 本市ふるさと納税（サポート寄附）の金額と活用状況はどうか。
- (3) 新宿区の「ふるさと新宿区わがまち応援寄附金」等、公益的活動を行っている団体を対象に、寄附者が団体を指定して寄附できるふるさと納税制度がある。本市で取り組むことはできるか。

2 スポーツによるまちづくりの推進について

- (1) 国の指導により行政主体で設立された総合型地域スポーツクラブだが、全国的に休止又は廃止されたクラブが増えている。このことについて、市はどのように考えているか。
- (2) 総合計画では、新たな総合型地域スポーツクラブの設立に地域の人材不足が課題になっているが、その解消に向けて、市はどのように取り組んでいくのか。

(3) 公民館から地域交流センターに移行後も、この施設がスポーツや文化活動を通じて地域づくりの活動に取り組んでいる総合型地域スポーツクラブの活動拠点になれるか。

3 番 福 田 勝 政 議員 (分割質問・分割答弁)

1 鉱害について

- (1) かつて日本経済を担った石炭産業は石油産業に移行したが、地下をアリの巣のように掘り巡らせた坑道が負の遺産として残り、各所で陥没し、鉱害をもたらしている。市内における近年の鉱害の現状はどうなっているか。
- (2) 土地の陥没や傾斜などにより鉱害が疑われる場合、どのような手続を経て採択、不採択が決まるのか。
- (3) 有帆中村の農地で複数箇所陥没があるが、これらを鉱害として扱ったか。今も危険な陥没が放置されているのはなぜか。
- (4) 同地区の自治会館の復旧工事が行われたが、これは無資力鉱区として山口県採石協会が対応したと聞いている。鉱害の認定がなされたのか。また、当該自治会館はどのような状況であったのか。
- (5) 同地区の自治会館の道路の向かい側の住宅が北側に3度傾いて、家中を真っすぐに歩くことができず、ドアが閉まらず、外壁は複数箇所にひび割れが発生している。敷地内をボーリング調査した結果、2層の古洞が確認されたが、鉱害と認定されなかった。その理由は何か。
- (6) 市民の財産、生命を守る責務がある市として、できることはないのか。

2 交通安全について

- (1) 昨年6月の八街児童5人死傷事故を受け、国は令和4年度予算に通学路の安全確保を進める補助事業として新規に500億円を計上し、歩道やガードレールの整備を自治体に推奨することになっている。現在、本市の歩道やガードレールの整備状況はどうなっているか。
- (2) 歩道、ガードレール、横断歩道、信号機の整備が不十分な箇所の対策優先順位づけはできているか。

4 番 古 豊 和 恵 議員 (分割質問・分割答弁)

1 子ども食堂の開設支援について

- (1) 子ども食堂は2020年時点で全国に約5,000か所あると言われるが、県内、市内の状況はどうか。
- (2) 本市では、平成28年5月に子ども食堂が1か所開設されて以降、増えていない。子ども食堂の役割をどう考えているか。

- (3) 子供たちに温かい食事や居場所を提供する子ども食堂を開設したいと思いつながら踏み出せない人たちが市内にいる。市が支援するだけで数が一気に増えると思うので、支援体制を充実させてはどうか。
- (4) 公民館が来月1日から地域交流センターに変わる。子ども食堂を地域交流拠点として捉え、地域交流センターで活動させることはできないか。

5番 吉永美子議員（一問一答）

- 1 東日本大震災をはじめとする被災地支援について
これまでの答弁を踏まえ、今年の予定はどうか。
- 2 気象防災アドバイザーの活用について
市長の施政方針にある「災害に強いまちづくり」を進める施策について評価はするが、平時の取組が重要なことから、気象庁が自治体に呼び掛けている「気象防災アドバイザー」を活用すべきではないか。
- 3 転入定住促進について
 - (1) 令和5年1月に終了する転入奨励金の評価と、今後の事業展開の効果をどう捉えているか。
 - (2) 子育て支援策として、医療費助成制度の拡充を行ってきたが、今後の拡充予定はどうか。
- 4 高齢者と障がい者に対する支援について
 - (1) 地域見守り協定は生きたものとなっているか。
 - (2) 視覚障がい者支援として、音声コードであるユニボイスを活用すべきではないか。
- 5 炭鉱による鉱害発生の際の対応について
有帆地区で地面が陥没した際、「原因作為」として地元自治会が対応せざるを得ないケースが発生した。市として危機感を持ち、対応を考えていくべきではないか。
- 6 学校におけるいじめ対策について
いじめを未然に防ぐ取組と、いじめが発覚した際の対応は十分行えているか。

6番 中島好人議員（分割質問・分割答弁）

- 1 令和4年度施政方針について
 - (1) 施政方針と自治基本条例の関係をどのように考えているか。
 - (2) 重点施策1の「地域を創る」について
 - ア 地域交流センター運営事業について、市民の意見をどのように聞き、どのように取り入れたか。

イ 地域運営組織推進事業について、市民にどのように周知し、参画を進めていくのか。

(3) 重点施策2の「ひとを創る」について、出産祝金給付事業や入学祝金給付事業は、子育て世代の定住に有効なのか。また、子育て世代の意見を反映した施策なのか。

2 「福祉灯油」事業の創設について

総務省は、原油価格高騰の影響を受けている生活者や事業者を支援するために地方公共団体が行う原油価格高騰対策に特別交付税処置を講じるとしているが、「福祉灯油」事業を創設する考えはないか。

7番 中岡英二議員（一問一答）

1 きらら交流館に係る基本計画について

(1) きらら交流館を新しいコンセプトの下で市場性を含めた機能の見直しを行うことにした背景と目的は何か。

(2) 昨年4月に実施した意向調査で市が把握した施設利用者と地域住民の意向をどのように受け止めているか。

(3) 竜王山公園の観光地化とPRをどのように考えているか。

(4) くぐり岩周辺の観光地化とPRをどのように考えているか。

(5) きららガラス未来館の観光地化とPRをどのように考えているか。

(6) 焼野海岸の観光地化とPRをどのように考えているか。

2 市内の70歳以上の方が市内どこまで行っても100円でバスを利用できる「バス優待乗車証」について

(1) 高齢者福祉事業として他市町村が行っている「バス優待乗車証」の実施状況はどうか。

(2) 「バス優待乗車証」の本市への導入費用と事業効果をどのように考えているか。

8番 白井健一郎議員（一問一答）

1 沖中川の治水対策について

(1) 高千帆樋門にある高千帆排水機場と日の出川（沖中川の支流）の下木屋排水機場にはそれぞれどのような排水設備があり、豪雨時にどのような基準で起動させるのか。

(2) 高千帆排水機場と下木屋排水機場以外に、豪雨時に沖中川の水量を調整するための設備はあるか。

(3) 沖中川一帯で定められている「55mm/h r」という基準は妥当か。

(4) 平成29年夏の豪雨による日の出三丁目における溢水の原因は何と結

論づけたか。

- (5) 沖中川に長田屋川や江川も含めた高千帆地区流域一帯の雨水排水整備計画を段階的に展開するようだが、どのように進めて行く予定か。
- (6) 高千帆排水機場と下木屋排水機場の保守点検を適切に行っているか。
- (7) 高千帆排水機場と下木屋排水機場の起動のタイミングを、保守点検を兼ねて、早めてはどうか。
- (8) 水位計や定点カメラを十分活用できているか。
- (9) 川底の汚泥をしゅんせつすべきではないか。

2 「多様性のある市政」とは

- (1) 市長は令和4年度の施政方針で、「多様化」について、「多様化の進む社会にあっては、様々な立場の人たちがお互いに価値観や考え方を認め合い、受け入れる仕組みを共に作りあげていくことが重要」と述べている。市長にとって、多様性を認め合い、受け入れる仕組みとは、具体的にどのようなものか。
- (2) 市長は、20年以上続いてきた「女と男の一行詩」の募集を昨年取りやめた。応募数の減少を理由の一つに挙げているが、抽象的に「女と男（おんなとおとこ）」という「性別」のみに着目した捉え方が時代に合わなくなってきたこともあるのではないか。

9番 岡山 明 議員（一問一答）

1 公共下水道の整備について

- (1) 公共下水道事業の現状と課題について、どう考えているか。
- (2) 今後の公共下水道整備の方向性をどう考えているか。
- (3) 公共下水道全体計画の見直しによる区域の縮小割合と範囲はどの程度か。
- (4) 見直し後の全体計画における区域の設定と整備の優先順位をどう考えているか。
- (5) 全体計画の区域から除外された地域への対応をどう考えているか。

2 日常生活における高齢者福祉サービスについて

- (1) 日常生活における高齢者等福祉サービスの中で、本市独自の特色あるサービスはあるか。
- (2) 独り暮らしの高齢者等を対象とした、ごみのふれあい戸別収集を行ってはどうか。
- (3) 高齢者バス優待乗車券の交付制度を導入してはどうか。

10番 前田 浩司 議員（一問一答）

1 埴生のまちづくりについて

- (1) 埴生地区にはスーパーマーケットがないため、食料品等の日常の買物が困難な状況にある人がいる。市として、何らかの対策を講じているか。
- (2) 旧埴生小学校のグラウンドや校舎跡地の利活用をどのように考えているか。
- (3) 交通と防犯の視点から安全な通学路をどのように確保しているか。

2 災害時要配慮者への支援について

- (1) 避難行動要支援者名簿の更新の状況はどうか。
- (2) 避難方法について、「個別避難計画」の取組は進んでいるか。
- (3) 避難をサポートする支援者を確保できているか。

3 太陽光発電設備の設置について

- (1) 現在、市内にどの程度設置されているか。また、そのうち農地転用を伴って設置された設備はどれくらいあるか。
- (2) 太陽光発電設備の設置について、市民から問合せや苦情等の申出はあるか。
- (3) 市独自で設置を規制する仕組みを導入する考えはあるか。

1 1 番 山 田 伸 幸 議員 (一問一答)

1 新型コロナウイルス感染対策について

- (1) まん延防止等重点措置が解除されたが、本市の対策は感染拡大防止として機能するものになっているか。
- (2) 子供への感染防止対策は難しさもあるが、家族への感染拡大、周囲への拡大を防止する上で重要となっている。どのように進めるのか。
- (3) 市役所の感染防止対策は万全だったか。
- (4) 市民の命と健康を守る立場から、県に保健所の設置を要望する考えはないか。

2 宇宙監視レーダーの建設について

- (1) 宇宙監視レーダーの建設計画は、当初の説明から様変わりし、建設に反対する市民の会も立ち上がっている。藤田市長は建設に納得していない市民と意見交換をする考えはあるか。
- (2) 市長は以前、「市民の命と安全が最優先」と答弁したが、レーダー電磁波の影響による健康被害はないと考えているのか。
- (3) 宇宙監視レーダーという軍事施設があることと、市民の安心・安全な暮らしは両立すると考えているのか。

3 地域公共交通の在り方について

- (1) デマンド交通をどう評価しているか。

- (2) 地方バス路線維持費補助金の負担が増大する中で、地方バス路線と公共交通の在り方をどう考えているか。
- (3) 公共交通について、市民の利便性の向上につながる施策はあるか。

12番 伊場 勇 議員 (一問一答)

1 創業支援について

- (1) 人口減少や空き家、空き店舗、空き地対策、商店街の衰退が課題となっている中、空き店舗等を活用して創業を目指す人を呼び込むことができれば、地域経済の発展や地域の特性を活かしたイノベーションの創出を生み出すことができ、課題の解決につながるものと考えます。市は創業支援で期待できる効果を何と考えているか。
- (2) 本市で創業するメリットは何があるか。
- (3) 市起業家支援資金融資の活用状況はどうなっているか。
- (4) 県の創業支援ポータルサイトと連携は取れているか。
- (5) 本市にビジネスインキュベーション施設が必要ではないか。
- (6) 若者やシニア世代が起業するきっかけ作りはできているか。また、それぞれに特化した支援はできているか。
- (7) 今後のまちづくりに不可欠なソーシャルビジネス（コミュニティビジネス）の必要性をどのように捉え、創業支援を行っていくのか。
- (8) 間口を広げた支援とは別に、本市の特性を活かした独自性の高い施策を展開する予定はあるか。

2 児童クラブの待機児童について

- (1) 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画には、多くの若い世代の方に「山陽小野田市で子供を産み育てたい」と思っただけのような子育て支援施策を展開していくとある。令和4年度（4月1日～）の児童クラブの待機児童数の見込みはどうか。
- (2) 毎年、児童クラブの申込者数をどのように予測しているか。
- (3) 令和4年度の待機児童数の見込みが判明したのはいつか。
- (4) 待機児童見込み数の判明後、待機解消のためにどのような取組をしてきたか。
- (5) 児童クラブに入所できない家庭への影響をどのように考え、対応しているか。
- (6) 高千帆小学校は令和5年度に新しい校舎が完成し児童クラブ室が増え、受入れを確保できるが、その前の令和4年度の児童クラブの待機児童への対応として、
 - ア 高千帆小学校の特別教室等の使用はできないか。

- イ 高千帆中学校西校舎の使用はできないか。
- (7) 令和4年度の待機児童に対して、早急な対応はできるか。